北海道新型コロナウイルス感染症対策本部
第１３０回本部会議　記録

日　時／令和４年１１月２日（水）
１３：３０～１３：５５
場　所／本庁舎３階　テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】
これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第130回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】
資料1をご覧願います。まずスライド1です。主な指標の状況について、昨日、1日時点で、新規感染者数は、全ての地域で今週先週比が1を上回っておりまして、人口10万対では、札幌市631.6人、札幌市を除く地域で652.9人、全道で644.8人と、いずれの地域も増加傾向にございます。また、病床使用率も札幌市が39.4%、札幌市を除く地域が27.8%、全道で31.5%と、増加傾向にございます。
続いてスライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が全ての圏域で1を上回っておりまして、増加傾向にございます。病床使用率も同様に増加傾向が見られておりまして、特に道央圏や道北圏、十勝圏は高い水準で推移をしております。
続いてスライド3、総評1です。全国の状況です。新規感染者数の増加傾向が続いておりまして、本道は10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多となってございます。
医療提供体制です。病床使用率は増加傾向にございまして、札幌市も同様の傾向が見られ、また、道央、道北、十勝圏が高い水準にあり、重症病床使用率も増加が続き、5.6%となっております。
感染状況です。新規感染者数は、10月13日に今週先週比が1を上回って以降、増加局面となりまして、その増加幅に変化はあるものの増加傾向が継続しており、また、年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割を占め、特に10代の割合が約2割と増加してございます。
続いてスライド4、総評2です。今後の対策です。現在の感染拡大について、国の専門家は夜間滞留人口の増加など人の動きの活発化や、気温が下がり換気しにくい時期となったこと、また、体調管理が難しいこと、ワクチン接種で獲得した免疫の低下などを指摘しております。これまでの新たな変異株による感染拡大とは異なっておりまして、現在の流行株は、この夏の感染拡大と同様にオミクロン株のBA.5系統でございまして、その対策としては、これまでと同様に、基本的な感染防止対策が有効とされております。このため、特に感染リスクの高まる場面でのマスクの適切な着用のほか、工夫した換気の実施、体調管理に十分注意するなど、基本的な感染防止行動を実践していただけるよう、改めて呼びかけてまいります。
また、10代以下の感染者数が増加してきたため、児童・生徒や保護者の皆様へ改めて周知しますとともに、オミクロン株対応ワクチンの早期接種を検討いただくよう、働きかけてまいります。また、企業などの事業所や高齢者施設、医療機関等における感染リスクが高まる場面の確認や、観光事業者等における事業者と利用者の双方が行う取組の徹底など、

感染防止対策を改めて点検いただくよう依頼します。

続いてスライド5、総評3です。保健医療提供体制は、これまで、検査キットの配布など検査体制の充実や、入院患者の増加に即応した病床の確保、陽性者健康サポートセンターの設置など、自宅療養者への支援などに努めるほか、全数届出の見直しに伴い、重症化リスクのある高齢者等への対応に重点を置く体制を整えてきた中、今後とも、こうした体制を維持確保し、その機能の十分な発揮に向けまして、地域の状況を丁寧に把握しながら改めて確認を行ってまいります。

なお、スライド28には、9月26日からの全数届出の見直しから概ね1ヶ月におけます陽性者登録センターの状況ですとか、健康サポートセンターの相談状況の概要について掲載してございますので、後ほどご参照いただければと思います。

スライドを戻りまして丸の二つ目ですけれども、即応病床は、入院患者数が増加しております道央、道北、十勝圏のフェーズを、11月7日から2に引き上げるとともに、道南圏なども入院患者数が増加しておりますので、地域との調整など、フェーズ2への引き上げを検討するほか、他の圏域も入院患者数の増加に即応できるよう、医療機関と連携を密にしながら、地域の感染状況等をモニタリングしてまいります。

インフルエンザとの同時流行は、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画」の策定に向けまして、道内のピーク時の発熱患者数や診療体制の状況、今後の対応等について専門家からご意見をいただいたところでございまして、引き続き、関係団体等とも丁寧に議論を行い、策定作業を進めてまいります。

スライド6、総評4です。本道で新規感染者数が増加している中、国の病床確保料の見直しは、今後の病床確保に影響が生じかねないため、全国知事会を通じ、地域の実情に応じた制度設計とすることなどを国に求めてきておりまして、道では、関係団体のご意見なども踏まえつつ、引き続き、全国知事会とも十分連携し、国に必要な対応を求めてまいります。

道の接種センターでのオミクロン株対応ワクチンの接種は、12月3日以降分の予約を前倒し、明日、11月3日から受付を開始いたします。道内市町村でも順次接種が開始されておりまして、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、SNSや情報誌等多様な媒体による広報を進めますとともに、従来型ワクチンの1、2回目接種が完了していない方にも、年内に完了いただけるよう、働きかけを行ってまいります。

続いてスライド7以降について、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

少し飛ばしましてスライド19をご覧願います。棒グラフのとおり新規感染者数は、10月中旬以降、再び増加傾向に入りまして、オレンジ色の折れ線グラフのとおり、入院患者数も10月下旬以降、増加傾向が見られております。また、中段の表のとおり、感染者数はいずれの年代も増加し、特に60代以上や、下段の参考の表になりますが、10代の増加が大きい状況にございます。

スライド22をご覧願います。円グラフのとおり、引き続き、30代以下の割合が最も高く、58.8%、60代以上の割合は14.8%と、概ね横ばいの状況にございます。

次に、スライド24をご覧願います。ワクチン接種ですが、左側の表、3回目接種は、10月31日現在、VRSベースで約355万5,000人、接種率は68.6%と、全国を上回っておりまして、このうち65歳以上は約152万人、接種率は90.8%と全国とほぼ同様の傾向にございます。また、右側の表、4回目接種ですが、これまで約193万8,000人が接種し、このうち60歳以上は約151万6,000人、接種率は75.4%で、全国を上回る状況にございます。下段の表、小児の接種率ですが、1回目が22.1%、2回目が21.2%と、全国を2ポイント上回る状況が

継続してございます。

スライド25をご覧願います。表の右側の黒の太枠のとおりですが、初回接種を完了した12歳以上を対象に、ファイザー、モデルナ両社のオミクロン株対応2価ワクチンの接種が順次開始されておりまして、先般、これらのワクチンにつきましては、前回からの接種間隔が、5ヶ月から3ヶ月に短縮されております。また、表の左側ですが、ファイザーワクチンで、生後6ヶ月から4歳までの乳幼児を対象に、先月24日から接種が可能となり、初回接種として3回接種することとされているところでございます。

スライド26をご覧願います。表の二つ目の丸になります。広報は、オミクロン株ワクチンの接種率向上のため、JRの中吊り広告やデジタルサイネージなどの新たな手法、また、チラシ配布や情報誌への広告掲載をしてございます。三つ目の丸です。小児や乳幼児接種は、3回目接種の開始や努力義務化といったことを踏まえまして、チラシやフリーペーパーなどにより情報発信しております。四つ目の丸です。初回接種が未了の方に向けまして、各広報媒体や知事記者会見などで、オミクロン株対応ワクチンが接種できなくなることや、年内の計画的な接種検討などについて呼びかけてまいります。下段の米印、新型コロナとインフルの同時流行も想定いたしまして、インフルエンザワクチンの接種、特に定期接種の対象であります高齢者などへの早期の接種検討を呼びかけてまいります。

続いてスライド27をご覧願います。道の接種センターですが、ノババックスワクチンは、現在、11月20日までの予約を受付中でございまして、全ての日程で空きがございます。また、オミクロン株対応ワクチンですが、11月26日までは既に予約を満たしている状況にございまして、12月3日以降の日程ですが、明日、11月3日から予約受付を開始いたします。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータや情報でございますので、後ほどご覧いただきたいと思います。資料1の説明は以上となります。

続きまして資料2をご覧願います。資料1「道内の感染状況等」につきまして、専門家や有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしているところでございます。有識者、専門家の皆様からは「概ね妥当」である旨のご意見をいただいておりまして、その内容をご紹介いたしますと、1－①ですが「新規感染者数や病床使用率が増加傾向にある中、本道は、換気対策がより難しくなる冬を目前に控え、更なる感染拡大が懸念されるため、保健医療提供体制の維持確保はもとより、感染防止対策の徹底を改めて道民の皆様や、事業者の方々に呼びかけていただきたい。」、1－②のとおり「現在、道内学校で、学校閉鎖が増加傾向にあると認識しており、子どもや保護者はもとより、祖父母を含め、より一層の意識啓発に向けた取組を展開していただきたい。」、こうしたご意見が寄せられております。

また、市町村や関係団体からは、2－①のとおり「病床確保料の見直しが国の方針通りに進められると、重点医療機関からコロナ病床返上の動きが進むことも想定されるため、感染者が再び増加している中、道においては、全国知事会等とも連携を図りながら、国に地域の実情を考慮いただくよう、強く働きかけていただきたい。」、こうしたご意見が寄せられております。これらの面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長からご説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明いたします。

それでは、最初のスライドをご覧ください。市内医療機関等から報告されました、新規感染者の1週間の合計についてでありますが、昨日の時点で1万2,383人、市の人口10万人当たりに換算いたしますと、631.6人と、10月中旬の感染拡大前の状況と比較し、約3倍まで増加をしているところでございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数は、昨日の時点で301人となっておりまして、確保病床使用率を見ますと、約40%となっており、増加をしているところでございます。医療機関内でも入院患者や職員から陽性患者が多数発生しているほか、高齢者の施設でも相次いで発生しているクラスターの影響も加わりまして、現在、入院調整が大変厳しい状況となっております。

また、入院患者の約8割が60歳以上となっておりまして、介護を要する高齢者の方も増えていることから、医療への負荷が急速に高まっている状況でございます。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でありますけれども、直近の1週間の件数は、1万5,063件となっており、陽性率は昨日時点で82.2%であります。病床使用率の上昇が続いているほか、先週から発熱外来も大変込み合っていることから、医療への負荷をできるだけ抑える必要があると考えております。

行動抑制することなく、社会経済活動を維持しながら感染拡大を抑えるためにも、基本的な感染対策の徹底とともに、ワクチン接種の促進が大変重要であり、それが更にインフルエンザとの同時流行や、次の流行株と予想されますBQ.1、若しくはBQ.1.1、XBB株への備えとなると考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。教育長からお願いします。

【倉本教育長】

資料4をご覧ください。これから本格的な冬の季節に入ることを踏まえまして、学校に対し、改めて感染防止対策の徹底を周知するとともに、保護者宛リーフレットを作成いたしまして、ご家庭においても、感染防止対策へのご協力をお願いすることといたしております。

一つ目は、基本的な感染対策の徹底です。三密回避、人との距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生など、基本的な感染対策を徹底するよう要請をいたします。

二つ目は、健康観察の継続的な実施、体調不良者への対応です。アプリを通して、児童生徒の健康状況や行動を確認する道教委独自のツールである「さぁチェック（SA-Check)」の活用により、健康観察を確実に実施するとともに、何らかの症状がある場合や、体調が優れない場合は出勤・登校しないよう呼びかけています。

三つ目は換気対策の実施です。今後、気温が下がるため、この資料の下段の方に書いてございますが、教室の換気の例を参考に、学校において必要以上の室温低下を防ぎつつ、常時換気に取り組むなどの対策を講じるとともに、ご家庭においても、換気対策を参考としていただけるようにいたします。道教委といたしましては、引き続き、健康観察や手指衛生、換気など基本的な感染対策の徹底及び集団感染のリスクの低減を図り、学校における感染症対策と教育活動の両立に努め、児童生徒等の安全と学びの保障に万全を期してま

いります。
以上です。

【副本部長（小玉副知事）】
この他、各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】
昨日の道内の新規感染者数は、人口10万人当たりでは644.8人となりました。北海道が全国最多となっています。全道の病床使用率は31.5%と増加傾向が続いています。道内の感染状況ですけれども、再拡大の局面に入った状況にあると考えられます。現在の感染拡大について、国の専門家からは、夜間滞留人口の増加などの人の動きの活発化、気温が下がり換気しにくい時期になったことや、体調管理が難しくなっていること、また、ワクチン接種により獲得した免疫の低下などが指摘されています。

これまでの新たな変異株によります感染拡大とは異なって、現在の流行株は、今年の夏の感染拡大と同じBA.5系統であります。これまでと同様に基本的な感染防止行動が有効であります。

このため、道民の皆様には、感染拡大の要因とされる感染のリスクが高まる場面などにおけるマスクの着用、工夫した換気の実施、そして日頃の体調管理に十分注意をするなど、基本的な感染防止行動を実践していただくようお願いいたします。

各本部員、地方本部員においては、市町村や関係団体とも連携をしながら、道民の皆様に、こうした呼びかけを行うとともに、事業者の方々に向けては、感染リスクが高まる場面の確認や、感染防止対策の徹底について再点検を働きかけるようお願いいたします。

道としては、これまで整備をしてまいりました保健医療提供体制について再確認を行ってまいります。特に、新たな療養支援の要となります、「陽性者健康サポートセンター」や、医療への入口としての役割を持つ「健康相談センター」の体制については、しっかりと確認をするようお願いいたします。

即応病床については、入院患者数が増加している道央圏、道北圏、十勝圏のフェーズを11月7日からフェーズ1から2に引き上げます。また道南圏などにおいても、入院患者数の増加を踏まえ、地域との調整を進めるなど、フェーズ1からフェーズ2への引き上げを検討するように指示いたします。

病床確保料の見直しについてであります。北海道の新規感染者数が全国最多という状況になっており、今後の入院患者数の増加も見込まれる中で、病床確保に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。道としては、関係団体などのご意見も踏まえ、見直し内容が地域の実情に即したものになるように、引き続き、全国知事会と連携しながら、国に求めてまいります。私としても機会を捉えてそうした考え方について示していきます。

最後にワクチンの接種についてであります。感染が再拡大する中、接種の時期が来ている方については、早期の接種を検討していただくことがより一層重要になります。

こうした中、道のワクチン接種センターにおけるオミクロン株対応ワクチンについては、道民の皆様から高い関心をいただいているということから、予約受付を前倒しいたします。12月3日以降分については、明日の11月3日から受付を前倒しして開始いたします。道内市町村でも順次オミクロン株ワクチンの接種が開始されております。年内に希望する方全員が接種できるよう、市町村とも連携し、様々な媒体で広報を行うなど、働きかけを強化するようお願いいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】
本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部第130回本部会議を終了いたします。

（了）